

「水環境ニュース」では、県内の水環境に関する情報を発信していきます。

「水環境ニュース」

今号では、

- ・ 水循環施策関係者会議
- ・ 第38回全日本中学生水の作文福島県コンクール表彰式及び水を育む森林環境学習発表会
- ・ 水の体験学習モデルツアー
- ・ 冬水田んぼによる地下水かん養モデル事業
- ・ 地下水資源調査の結果

についてお知らせします。

福島県水循環施策関係者会議を開催しました

9月5日(月)に水循環施策の関係者が参集し、**水循環基本法**※1及び**水循環基本計画**※2についての理解を深め、水質浄化、親水教育、環境保全等の幅広い課題について情報共有を図るとともに、国、県、市町村、団体等で構成する福島県水循環協議会(仮称)の設置にあたり意見交換を行うことを目的として、福島県水循環施策関係者会議を檜枝岐村で開催しました。会議では、福島県水循環協議会(仮称)設置に向けて、関係者が連携して準備を進めていくことを確認しました。



国、県、市町村、関係団体の担当者が集まり、意見交換を行いました。



内閣官房水循環政策本部事務局から、水循環基本法や水循環基本計画について解説がありました。



9月6日には水源である尾瀬の現地視察を実施し、健全な水循環の重要性を確認しました。

※1 水循環基本法

水循環基本法とは、水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進し、健全な水循環を維持又は回復させ、経済社会の健全な発展及び国民生活の安定向上に寄与することを目的として平成26年に制定されたものです。

地方公共団体は国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、実施する責務を有します。

※2 水循環基本計画

水循環基本計画のポイント ～協議会の設置と水循環計画の策定と推進～

- ・ 地方公共団体、国の地方支分部局、事業者、団体、住民等が一体となり、**流域水循環協議会**を設置。
- ・ 流域水循環協議会が、各分野の横串を刺した総合的な**流域水循環計画**を策定。
- ・ 流域水循環計画で示される基本的な方針のもとに**有機的な連携**が図られるよう、森林、河川、農地、下水道、環境等の水循環に関する各種施策について関係者は相互に協力し、**施策を実施**。

施策実施イメージ：水環境の保全と回復

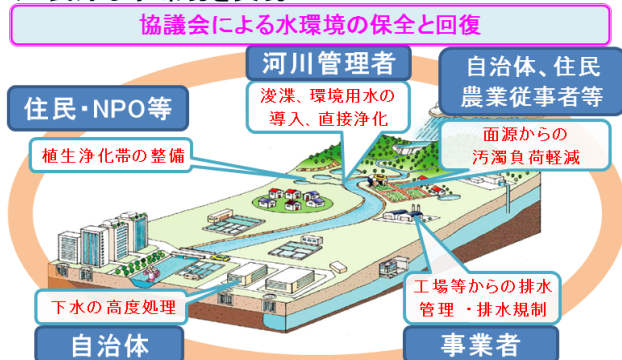
【課題】

- ・ 湖沼や閉鎖性海域における水質改善の遅れ
- ・ 水質規制、汚水処理などそれぞれの観点から対策

新たな取組(案)

- ・ 流域の関係者・関係機関が共通の目標設定のもと、役割分担を明確にした計画を策定
- ・ 排水水の負荷低減、浸漙、環境用水の導入、直接浄化等の対策

→ **良好な水環境を実現**



施策実施イメージ：普及啓発の推進

【課題】

- ・ 水の公共性・重要性に関する国民意識は低く、国民レベルや民間による水循環健全の取組は少ない。

新たな取組(案)

- ・ 学校等における水循環保全活動への支援、「水の日(8/1)」関連行事への国民参加の促進、民間企業等による普及啓発活動への支援

→ **国民自らの積極的取組、官民一体となった活動**



出典：内閣官房 水循環政策本部事務局

全日本中学生水の作文福島県コンクール表彰式 及び水を育む森林環境学習発表会が開催されました

福島県では、水の日(8月1日)、及び水の週間(8月1日～7日)の行事の一環として、広く水に関する関心を高め、理解を深めることを目的として、本県の次代を担う中学生を対象に水の作文コンクールを実施しています。

第38回目となる今回は、16校から675編の応募があり、入賞作品15編と学校賞8校を決定しました。

8月4日(木)に福島市の杉妻会館で表彰式が開催され、入賞者へ賞状が授与されました。

また、表彰式では優秀賞受賞者による作品発表が行われ、水循環の源ともいえる森林について理解を深めるため、天栄中学校の皆さまから、森林環境学習について発表していただきました。

入賞作品は福島県土地・水調整課のホームページで読むことができます。



出席された皆さん



優秀賞受賞者ご本人に作品の発表をしていただきました。



天栄中学校さまから森林環境学習の取組について発表していただきました。

水の体験学習モデルツアーを実施しています

原子力災害に伴う県内の水への不安を払拭し、避難者の帰還、子どもたちの心身の健康維持・増進をはじめ復興再生の加速化につなげるため、本県の豊かな水資源、清らかな水環境、地域に息づく水文化を活かした水環境を体験していただく「水の体験学習モデルツアー」を実施しています。



水生生物観察体験(三春町)



アクアマリン水族館(いわき市)



カヌー体験(夏井川)

《事業名》

親子で「福島の水」について学ぼう！
感じよう

《主催》

NPO法人
子育て支援コミュニティチママン

《ツアー日程》

第1回目:7/28(木) ※終了しました
第2回目:10/1(土) ※終了しました

《事業名》

水にチャレンジして楽しもう！！

《主催》

NPO法人
御倉町かいわいまちづくり協議会

《ツアー日程》

第1回目:8/9(火) ※終了しました
第2回目:11/19(土) ※募集中

《事業名》

夏井川で遊ぶ、学ぶ、体験ツアー教室

《主催》

NPO法人
小野自然倶楽部

《ツアー日程》

第1回目:9/4(日) ※終了しました
第2回目:11/6(日) ※募集中

水田の冬期湛水により地下水を増やす取り組みを行いました (冬水田んぼによる地下水かん養モデル事業)

冬の間、田んぼに水を張る「冬水田んぼ」は、生物多様性をはじめ環境保全に関して様々な効果があるとされていますが、その効果の一つとして、水の地下浸透(地下水かん養)が挙げられています。

県では、冬水田んぼによる地下水かん養の効果を検証するため、喜多方市松山町の面積約10%をモデル地域として、平成26年度と平成27年度の冬期間に、冬水田んぼによる地下水かん養の実証事業を行いました。

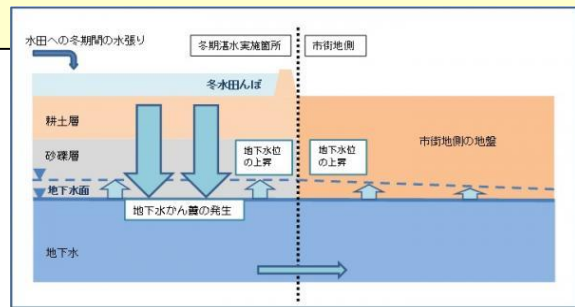
地下水位は、冬水田んぼ実施水田周辺の井戸5箇所に設置した水位計により観測しました。

検証については福島大学共生システム理工学類(柴崎研究室)により行われ、平成27年11月から平成28年3月(一昨年も同時期に実施)にかけて実施した冬水田んぼによって、地下水かん養の効果が表れていることがわかりました。

※田んぼへの水の浸透量の総量は358,172m³(25mプール約663杯分)と推定され、地下水かん養の効果としては、冬水田んぼを実施していない平成26年1~2月の最低水位と比較すると、平成27年で0.42m、平成28年1~2月では0.80m高い値となっていました。これは、平成28年1~2月は例年よりも積雪量が少なく消雪用地下水揚水量などが少なかったと見込まれることにより、地下水位の低下が少なかったことと、さらに、水田に水が入りやすく、浸透量が多かったことから、大幅に水位が上昇したと考えられます。



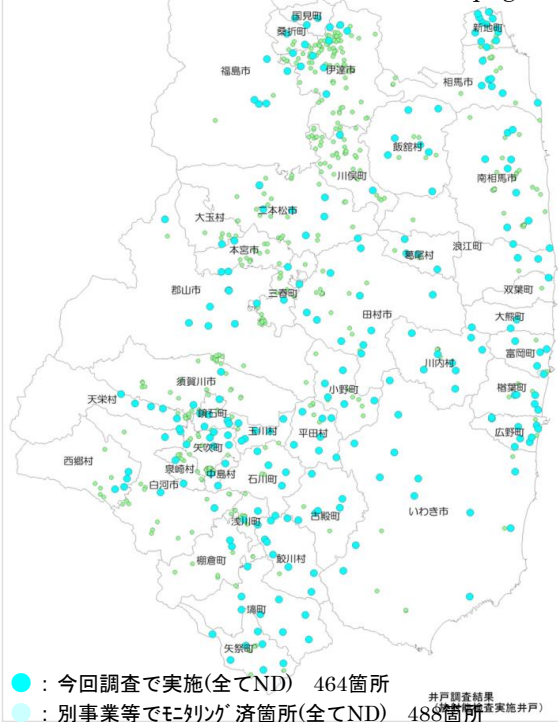
冬期湛水の様子



地下水資源調査を実施しました

放射性物質検査実施井戸位置図

・全てND(不検出: 検出限界値1.0Bq/kg未満)



福島県中通り・浜通り地域の市町村を対象として、地下水を有効活用できるよう、地下水の質(安全性)と量を確認するため、既存井戸500箇所の調査を実施しました。

【水質】

- ・500箇所の井戸を調査し、採水できなかった井戸36箇所を除いて、放射性物質は全てND(不検出: 検出限界値(1Bq/kg未満)でした。
- ・水素イオン濃度、マンガン、鉄、フッ素等で水質基準値を超えた井戸が67箇所(※)ありました。

※調査した井戸には個人で使用するものと、市町村等が飲用の水源として管理しているものがあります。井戸から取水したままの原水を調査。水素イオン濃度等が水質基準を超過したものであっても、市町村等が管理する水道等の飲料水となる原水については適切に浄水処理され、水質基準に適合した状態で供給されています。

【資源量】

- ・概ね十分な水量が確保されています。なお、一部の井戸で時期によっては水量の増減がみられました。
- ・阿武隈高地における山間盆地中央の河川合流部周辺に良好な帯水層が期待されます。

【災害時利用】

- ・これまでの調査結果を含め、合計357箇所の井戸で災害時の協力に同意を得られました。

[問合せ先]

福島県企画調整部 土地・水調整課

メール: tochi_mizu@pref.fukushima.lg.jp

HP

福島県 土地・水調整課

検索

〒960-8670 福島市杉妻町2-16

電話: 024-521-7123 FAX: 024-521-7911